

画像の認識・理解論文特集の発行にあたって



画像の認識・理解論文特集編集委員会

委員長 斎藤 英雄

本特集は、2008年7月に長野県軽井沢において、画像情報学フォーラム、本会ISSパターン認識・メディア理解（PRMU）研究専門委員会、情報処理学会コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM）研究会により共同開催された第12回画像の認識理解シンポジウム（MIRU2008）に合わせて企画されたものである。MIRUは、画像の認識・理解の分野の最新の研究成果を一堂に集めて議論できる場を提供することを目的に毎年開催される国内で最大のシンポジウムであり、MIRU2008では過去最多の発表者・参加者数を集めることができた。このMIRUの最大の特徴の一つは、査読付論文を募集し、2名の専門家による査読とそれを統括する複数のエリアチエアによるメタレビューを行うことにより、質の高い研究論文が発表されていることにある。

本特集では、MIRU2008での査読において優れた研究論文と判断されたものを「MIRU2008推薦論文」とし、MIRU2008で発表された多くの質の高い研究論文が本特集号へ積極的に投稿されるようにエンカレッジした。その結果、推薦論文を含む69編の論文の投稿があった。これらの投稿論文それぞれについて通常論文と同一な査読基準で厳正かつ慎重に審査した結果、25編の推薦論文を含む35編の論文を、本特集号に採録

することができた。これらは、パターン認識と学習のように、この分野における基礎理論に関する研究を扱ったものから、インタラクション・VRのような新しい応用を扱ったものまで、画像の認識・理解の分野における国内の最先端の研究成果を集めたものとなっており、この特集号がこの分野の研究者の今後の研究に多いに役立つ内容であると確信している。

最後に、貴重な研究成果を投稿して下さった著者の方々、労力を惜しむことなく丁寧に査読して頂いた査読委員の方々、そして査読が滞りなく進むように査読意見や論文内容について丁寧に御検討頂いた編集委員の皆様、そして本特集の企画から発行に至るまで多くの作業を進め、更に委員長を常に激励して頂いた編集幹事の黄瀬浩一氏と木村誠氏、そして学会事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。

さいとう ひでよ
斎藤 英雄（正員） 1987慶大・理工・電気卒。1992同大学院理工学研究科博士課程電気工学専攻了。博士（工学）。1992同大学助手。同講師。同助教授を経て、2006慶應義塾大学理工学部情報工学科教授。1997～1999米国カーネギーメロン大学ロボット工学研究所訪問研究員。2000～2003JSTさきがけ研究21「情報と知」領域研究員兼務。コンピュータビジョンとその応用に関する研究に従事。情報処理学会、映像情報メディア学会、情報処理学会、日本VR学会、IEEE等各会員。

画像の認識・理解論文特集編集委員会

委員長	斎藤 英雄
幹事	黄瀬 浩一・木村 誠
委員	石川 博・井手 一郎・奥富 正敏・亀田 能成
	川崎 洋・喜多 泰代・倉爪 亮・佐藤 洋一
	清水 郁子・杉本 晃宏・仙田 修司・出口 光一郎
	馬場 口登・藤吉 弘亘・前田 英作・向川 康博
	山澤 一 誠